

## 令和7年度 授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	松戸市立東部小学校
-----	----------	-----	-----------

### 1. 課題 (これまでの全国学力・学習状況調査結果等から)

○質問紙(17)(20)に肯定意見が多く、関わり合って学ぶ児童は多い。(21)の家庭学習は、自分で計画したり、取り組み方を考えたりすることの数値が低い。(33～35)では、学び方は平均値より高いが、苦手意識をもつ児童に自信をもたせる手立てが課題である。

### 2. 取組のポイント (仮説、改善方法等)

○単元(指導計画)の中に「個別学習」の時間を位置付けて、児童の実態に合わせた①学習課題  
②学習過程③学習形態の選択が図られれば、児童が主体的に学習に取り組むことができるだろう。

### 3. 具体的な実践

○年間3回の校内研究会の開催(1回は、次年度の公開研究会に向けて今年度も公開研究会を実施した)→全員が1授業を行うことで見識を深めた。  
○校長による保護者に向けた説明会の実施した(3回)。  
○本校独自の指導案の型の作成および使用した。  
○「個別最適な学びと協働的な学び」(那須 正祐 著書)を職員全員で読み深めた。  
○東葛飾教育事務所 津軽 美穂指導主事による理論研修を行った。

### 4. 成果

○教師の願いを指導案の作成から授業づくりに取り入れることで、児童視点と教師視点を掛け合わせた単元づくり(本時展開)を考えることができるようになった。  
○理論も併せて深めることで、各教科の身に付ける視点や教科の特性を踏まえて授業づくりをすることにつながった。

### ◆担当指導主事から

○児童が主体的に学習に臨めるように、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を全教科領域で目指している学校である。学習環境を工夫したり、教師の願いや学習のねらい、単元を通した学びの計画を大切にするため、指導案の形式を工夫したりしている。次年度に向けて「学びのハンドルを児童へ」を合言葉に、全職員で力を合わせて研究を進める予定である。